

---

# 監視役の先生

shinndai

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

監視役の先生

### 【Zマーク】

Z2063F

### 【作者名】

shinnanda

### 【あらすじ】

清水中学校一年三組出席番号22番鳥居大氣という人物の周りで、不可解ともいえない事が起こる、そのたびに、鳥居大氣はその事実に巻き込まれていた。我慢の限界に達した、彼のとった行動とは？

## 監視役の先生ー（前書き）

鳥居は、こつものよつてテストを終え、何も言わず席に座つて休み時間を過ごしていた。そして、奴らはやつてきた。

## 監視役の先生1

秋の夜。お月見にはこれ以上の無いぴったりの満月の夜。  
それは、人生の始まりを指す日でもあった。

鳥居大氣、14歳。

いつものように何度もテスト用紙と答案用紙とのにらめっこを終え、頭を抱えながら休み時間を過ごしていた。

「起立、礼。」

の声とともに、授業の終わりを合図するチャイムが聞こえた。

「ふ〜、やつと終わつた〜。」

「あぶねえ。まじギリギリだつた。」

「楽勝だぜ〜。」

「あー、もう無理無理。」

「死ぬう〜」

ゆがんだ声が聞こえた。テストが終わったという安堵感の中、皆が言つ言葉は決まってこんな感じだ。しかし、自分はやはり、「楽勝」という言葉を聞いたとたん、いやな汗が背中をつたるのである。いや、皆そうなのかもしれない。友達といつても、やはりこの時期のテストは、将来にも響くのだ。それだけ重要なテストだし、これは、これだけは勝負ということになる、と他の人より一点でも多くとうとうという「絶対負けたくない」という気持ちがあるのだ。もちろん、得意不得意があるので、「楽勝〜」なんて聞こえた日には、不安になるのが当たり前であろう。自分もその入り。あそこだけは当たっていますように！前回よりも点数が上がっていますように！あるだけには勝つていますように！！！教室内を見渡せば、上手とも下手ともいえない絵が、ちらちらと目に映る。絵が描いてある答案用紙を持っているのはだいたい男子だ。この年になつてさすがに女子で問題用紙のに絵を描く人はいない。周囲は、テストの答え合わ

せや、問題用紙に描いた絵の見せ合いつこ、中には一人で黙つて座つている奴もいる、まあ自分なのが。そして、自分が何もしないと奴らは来る。奴らという表現を使うと怒られるかもしないが、三・四人くらいの小さい人と、中くらいの人一人、中の上くらいの人が一人、他一名で問題用紙を持ってくるのだ。やることは皆そろつて決まつていてる。もちろん、絵の見せ合いつこである。自分が恥じることになるので、来ないでほしいというのが本音である。しかし期待した目で見られると、断ることが出来ない。

自分は教室内で恐らく一番のお人よしだ。この間も、女子が落としたハンカチを拾つて渡したのである。多分これは、普通の人なら真似できない、と自分で勝手に思つてゐる。とまあこんな感じだ。仕方なく問題用紙を見せるが、かかれているのは問題文だけ、絵などどこにも見当たらない。「おおいおいおいおい

「何もかいてないじゃん」

「つまらん」

と言い残し、さつやと次の絵を見つけに行つてしまつた。ムカツとする反面そんな奴らをうらやましいと思う自分がいた。なぜなら、絵を描くという余裕が彼らにはあるということだからである。きっとも頭を悩ませているのだろう、といつ勝手な憶測を事実とし、自分に思い込ませてゐるという「あいたたたたた」的な存在になりつつある自分。

自分が最後に解こうと残しておいた1・2問を四苦八苦してなんとか答えを書こうとしている間に彼らは既に自分が思いつくままに絵を描いていたといつ、これが現実。しかし意外と開き直りが早く、今度頑張ればいい。と思い込ませる。もちろん次のテストの時間が英語の時はなしである。一応数学も。今日は幸い、次の時間四時間目が数学だつたので、まあ良かつたと、次はやつたるでえといふ気持ちで次の数学に挑むのである。休み時間はテスト開始2分前を指していた。数学の教科書が一冊、また一冊と、教室の後ろにあるロッカーにしまわれるのを目で追つのをやめた。監視役の先生が、

ロッカー前の席に着いた。授業の始まりだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2063f/>

---

監視役の先生

2011年1月8日15時07分発行